

# 決算特別委員会

## 一般会計決算などに活発な議論

決算特別委員会は、10月8日から10日まで町中央コミュニティセンターで開かれました。特別委員長には、木下志生子委員を選出。3日間にわたり一般会計や介護保険特別会計など9会計の平成19年度決算を審議しました。ここではその審議の概要をお伝えします。

### 総括質疑



昨年のお酒まつりの様子。本年は11月30日と12月7日に開催されます

#### 実質公債比率と 自主財源比率の改善理由

**問** 18年度に比べ実質公債比率と自主財源の比率が良くなっている理由は。今後は、緊縮財政を改め、各事業にある程度投入しては。  
**企画財政課** 16年度に一括償還した分の影響額がなくなつたため、19年度末の実質公債比率が下がった。自主財源は町税の徴収を努力した結果である。  
**町長** 経費削減を行ってきたが、まだやらなければならぬことがある。今までも行ってきたが、必要と判断した事業であれば財政調整基金を取り崩して実施することもある。

#### 実質公債比率の引き下げ 町の運営に支障が出るか

**問** 実質公債比率をどこまで下げるのか、下げすぎると町の運営に支障が出るのでは。  
**町長** 現在の15・6%の水準を維持すれば、町の事業には影響を及ぼさずに運営できると考えている。

#### 県内での所得位置と 所得向上に向けた対策

**問** 県内35市町村で比較した場合の町民所得位置と所得向上に向けた対策は。  
**総務課** 町民所得は、17年度は上から26番目である。金額については、16年度

より0・81ポイント減り、171万3000円となっている。所得向上のため、山田の特産品の販売ルート拡大に力を入れている。

#### 交流人口増やすため 観光事業を積極的に

**問** 交流人口を増やす仕組みを構築し、交流型の観光事業を積極的に進めるべきだと思うが。  
**産業振興課** 過去においてタブの木荘やマリンパーク山田など、行政が携わってきた事業は、維持継続ができなかった。町としては、民間資本を基本として、やる気・意欲・計画性を勘案しながら、できる限りの支援をしていきたい。